

講談会@あさき:

我孫子の歴史、知らないじゃモツタイナイ

Masakado Project 2022



“北の鎌倉”、本来の意味

かずゆき

戸田七支 (郷土史研究家、布佐在住)



近年はネット取材を受けるなど、坂東の歴史の語り人として市内外で講師を務めている。我孫子の文化を守る会、市史研、将門プロジェクトに属して独自の視点から千葉・我孫子研究を進めている。

今回のお話は、1100年前の**平将門の乱**が、我孫子と大きな関わりがあったこと、**将門の本拠地**が新木、中峠、日秀あたりに比定したこと等を明します。

新木駅近くの「遺跡の公園」へ至る道に「**かまくら道入口**」の標識(教育委員会設置)がある。嘗て布佐駅の近くには、**頼朝の松**(写真右、教育委員会蔵)があった。つまり、一度は敗走の**頼朝**が安房から上陸、**鎌倉殿**となる起死回生に繋がったのは、神通力を得た場所があったと考えられる。史料及び地形分析から**将門～頼朝の歴史の裏**を解析する。布佐、新木を抜け、武将が手を掌せたい所とは…。

下記にて、我孫子が“**北の鎌倉**”と言われる本来の意味を解き明かし、皆様とゆるり談義します。

日時 **7月16日(土) 1時半～**

場所 **新木近隣センター 会議室 B**

☆**先着: 10人** (コロナ禍対応のため)

☆**資料・参加費: 500円**

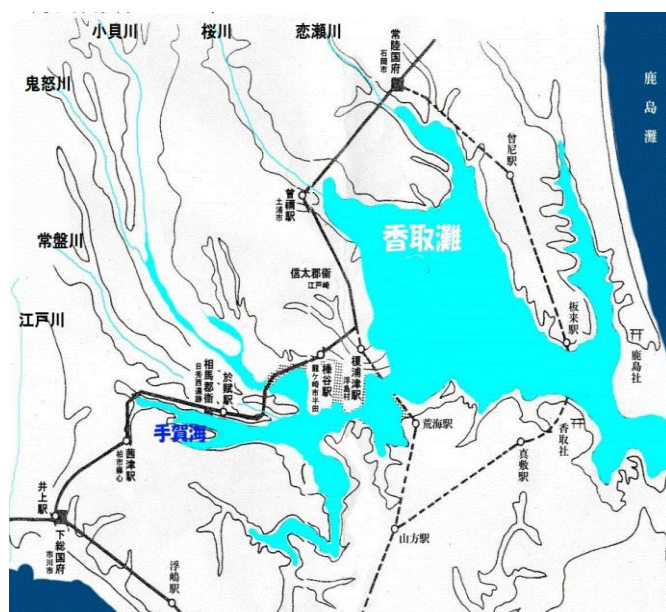
申込み/問合せ

我孫子カルチャー&トーク

080-1164-0145 (海津^{かいづ})



頼朝の松 (布佐、S.56年頃) ↑



頼朝軍は、布佐、新木、湖北を抜け、そして
いざ**鎌倉** へと向かった! ?